

事業所名 グループホーム もみじの里

日付 平成18年3月31日
 特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 老人保健施設介護実務経験5年、
 居宅支援事業所介護支援専門員経験5年
 評価調査員 在宅介護経験11年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

訪問すると、流しの横にテーブルを置き食事の用意。キャベツをトントンといい音をさせながら切っている。お好み焼きと、焼そばがおいしい匂いをさせてとんとん焼きあがっていく。自分の仕事としてやっている人、職員が「お手伝いしていただけますか」との声かけに気軽に手伝いしてくれる人。声には出さないが役立っている自分を褒めているように感じた。それが大変自然だったのが嬉しい。喜んで仕事をして体を動かす事が、いつまでも元気で若々しく過ごせる事だと確信した一瞬だった。

このように、何事もスケジュール通りに動かなくても、何も形を決めなくても普通の生活が出来、共に助け合い仲良く生活できることを実証している。こんな普通の生活はどこにでもあることであるが、ここでの生活ではじっと寄り添い見守る人がいるからで、職員の言葉として「自分の母のように思っています。愛情一杯もらっています」と。その笑顔のいいこと。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者の季節の衣類は家族と一緒に入れ替えをすると、家族との交流の場作りになるのではなかろうか。

利用者の心の動きをもう一度見直す手段として、センター方式の24H生活変化シートの活用をしてみてもどうか。

ヒヤリハット記入の簡素化で、ホームおよびホーム周辺の地図に「転倒、つまずき、」等簡単に記入。また、多い箇所にマークをつけ関心を引く方法はどうか。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	今は、認知症高齢者と知的障害者で認知症高齢者とが一緒に生活している。夫々の利用者に添う対応を模索しながら、真剣に取り組んでいる。ホームとして、その人らしく普通の家の暮らしを目指している。テラスには洗濯物が干してあり、天気を見ながら利用者が気をつけて取り込んでくれる。 風呂は毎日ゆっくりと午後から入り、仲良し2人組みはいつも一緒。家が気になるとドライブを兼ねて、家まで行き安心してもらう。利用者一人ひとりの要望を引き出して全員でその方の思いを共有する。こんな自然な形で、暖かく包み込む柔らかさがある。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	ホールのテーブルの位置を変え、利用者が落ち着けるような模様替えした。また、ホールの一角にある畳の部屋は掘り炬燵があり、目隠しに障子がはめられ、落ち着ける場になっている。利用者はたまり場として活用している。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「あなたらしく、ありのままに」生活をしていただく。 花の好きな利用者がいて、植木鉢を自室に置き、水遣りをしたり、日光に当たったりして管理をしている。職員はこれを暖かく見守っている。日常の家事も出来ることに「していただけますか」と声を掛けると、殆ど人の人はにこにこ笑顔で応じている。決して無理強いではなく、流れるような動きで元主婦達の元気な姿を伺わせてくれる。全く家事はしないと決めている人への対応に苦慮しているが、気長に対応する事が必要でしょう。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	知的障害者の高齢者が複数一緒に生活をしている。一人ひとりに対応が異なるので模索しながら、努力している。 「利用者さんの笑顔を見たくて」と管理者と職員は同じ思いで色々なケースにあたり、意見交換しながら、確実にサービス向上に努め信頼を得ている。利用者も職員との何気ない会話で自然体で穏やかなのがほっとする。		